

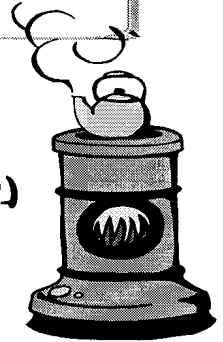


土浦平和の会

ニュースNO・124 2002年12月

発行 土浦平和の会
事務局 土浦市神立町2664-2
TEL 31-9122

アメリカの戦争にどこまでつきあうのか アメリカの覇権主義が続く限り テロも続く



昨年の11月9日以来、アメリカではずーっとテロとの戦争が続いている。日本でも、アメリカの戦争が終わらない限りアメリカへの支援が終わらない。11月19日に期限切れのテロ特措法を来年5月19日まで延長した。海上自衛隊の艦艇による米英両国艦船への燃料補給は、9月までに延べ116回（米軍111回、英軍5回）、合計20万キロリットル（約72億円）を無償提供したという。米海軍が消費した燃料の40パーセントを日本が提供した計算になるという。この量は海上自衛隊の全艦艇の1年間の使用量に相当する。

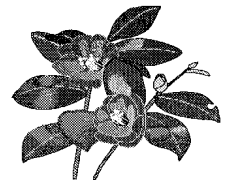
アメリカのイラク攻撃は 破滅的結果をもたらす

アフガン戦争もまだ終結したとは言えないのに、万一イラク戦争が始まれば、破滅的に長期の消耗戦に引きずり込まれることが予想される。今度のイージス艦派遣によって、日本も一緒に深みにはまることになるのではないかと。ノーベル平和賞を受賞したカーター元大統領は「核保有国が増えた現在、超大国が予防的な戦争を原則として採用すれば、破滅的な結果を招きかねない」「戦争は時に必要悪かもしれないが、常に悪であり、決して善行ではない」「不完全とはいえ、国連を通すのが最善の方法」と述べています。



中東情勢は複雑

北朝鮮のミサイルをイエメンが輸入したニュースは、北朝鮮の武器輸出のルートが予想以上に広範囲であることを明らかにしただけでなく、中東地域が非常に複雑で流動的であることを示した事件ではなかったか。イエメンにもアルカイダが拠点を構えて政府と対立しており、イエメン沖でフランスのタンカーがテロの被害を受けている。米英軍に対する燃料補給をしていることを理由にしている。日本の艦船が攻撃を受ける理由も成り立つわけである。イエメン政府が北朝鮮とのルートを持っている点ではアメリカ一辺倒ではない。そのイエメンがミサイルを輸入した目的はどこにあるのか不明であるが、その前に北朝鮮が武器輸出に頼らなければならない状況を改善しなければ北朝鮮による脅威は無くならないのではないかと。



止める力は世論の力

畑田重夫さんは「戦争は国家による最大の公共事業でありムダ使い」「アメリカ経済は深刻な状態だが、軍需・石油・エネルギー産業だけは景気を謳歌している。イラク攻撃でさらにぼろ儲けしようとしている」と言っています。日本がこれを支援することを世界は望んでいないはず。いまこそ国際的世論でアメリカを包囲し、国民的世論で日本の政策変換を迫らなければなりません。

行事ごよみ

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 12・22 平和の会理事会（神立コミセン） | 1・21 平和の会理事会予定（1中地区公民館） |
| 1・18 県平和委常任理事会（水戸市民会館） | 2・1 県平和委理事会（水戸） |